

みずのわ

学校だより
【第11号】

令和5年1月10日（火）
石巻市立石巻小学校

【謹賀新年 ～合言葉は“温故創新”～】

こそことし つらぬ 棒の こと
去年今年 貫く 如きもの

高浜虚子

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかな年を迎えられたこととお慶び申し上げます。本年も御支援、御協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

私事ですが、今年も東松島の大曲浜に初日の出を拝みに行きました。今年の元旦は一時的に寒さが緩んだようで、大勢の人が岸壁に集まっていました。昨日も昇り、明日も昇り、お天道様に去年も今年もないのでしょうか、やはり一年の始まりに見るお天道様は特別なもののよう思えました。

さて、冒頭の俳句は、高浜虚子（たかはま きよし、1874～1959年、愛媛県出身の俳人、小説家）のものです。虚子は現在の東北大学に在籍していた時期があり、宮城にとってもゆかりのある俳人です。

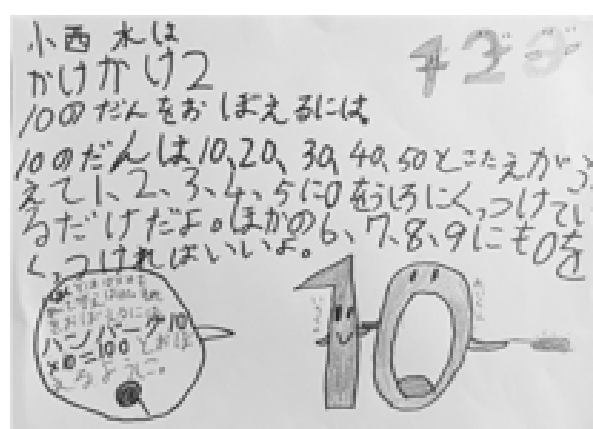
この句は、物の本によると「去年が今年に入れ替わり、一夜明けると昨日

は去年となり、今朝は今年と呼ばれるようになっていく。このようにして、時の流れに区切りをつけて人は生きている。しかし、時というものは過去、現在、未来を通して貫く一本の棒のように連続しているものなのだ。時間をどう区切って呼ぼうとも、時の流れの中で一本の芯棒のように曲がらない己の信念がある。」という解釈になるようです。

「過去、現在、未来を通して貫く一本の棒のように連続しているもの・・・」これを本校の教育に当てはめると、約120年前に作られた「校訓五箇条」、「当校教員注意要項」などになります。悠久の時を経てなお色あせない不易の教えです。私たち石小のスタッフ一同は、この教えを基盤としつつ、今求められている教育（個別最適な学びや協働的な学びなど）を今年も推進してまいります。合言葉は“温故創新”です。

3学期は、登校日数が51日（6年生は48日／5年生は52日）です。新型コロナウイルス感染症はまだまだ予断を許しませんが、校内でできる対策を取り、まとめの学習をしっかり行い、力を付けて進学・進級できるよう、職員一同、精一杯頑張っております。

（校長／川田知宏）



かけざんのひろ 小西 水葉 作